

# 市内スーパーにおける資源物の店頭回収状況等調査結果(概要)

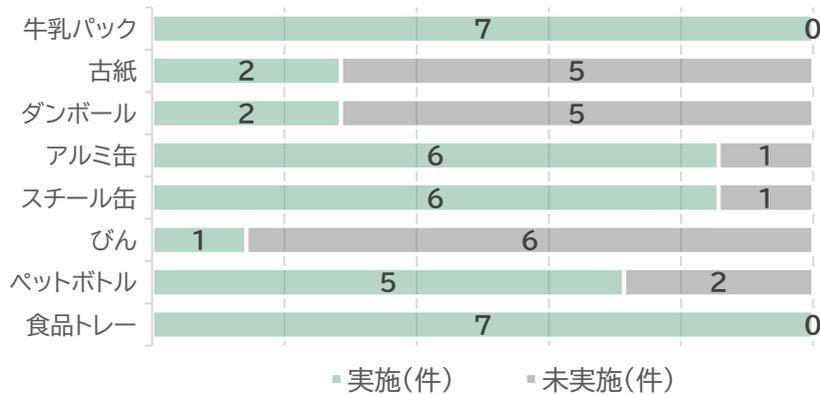
館林市 地球環境課 令和5年10月

- **調査目的**  
市内のスーパーが回収・資源化を行っている資源物の量や課題を把握し、市のごみ排出量や資源化率との関連性を探り、ごみの減量や資源化率の向上をに向けた検討に活用します。
- **調査対象及び方法**  
群馬県環境にやさしい買い物スタイル普及促進協議会事務局を通じて、同協議会に加盟する市内のスーパーに調査を行いました。
- **調査期間**  
令和5年8月30日(水)～10月2日(月)
- **回答状況**  
調査対象とした全7店舗より回答がありました。

## 1 実施状況

- ・牛乳パック、食品トレーは全店舗で回収を実施
- ・アルミ缶、スチール缶、ペットボトルも高い割合で回収を実施
- ・ペットボトルキャップを回収している店舗が2店舗

店頭回収実施状況



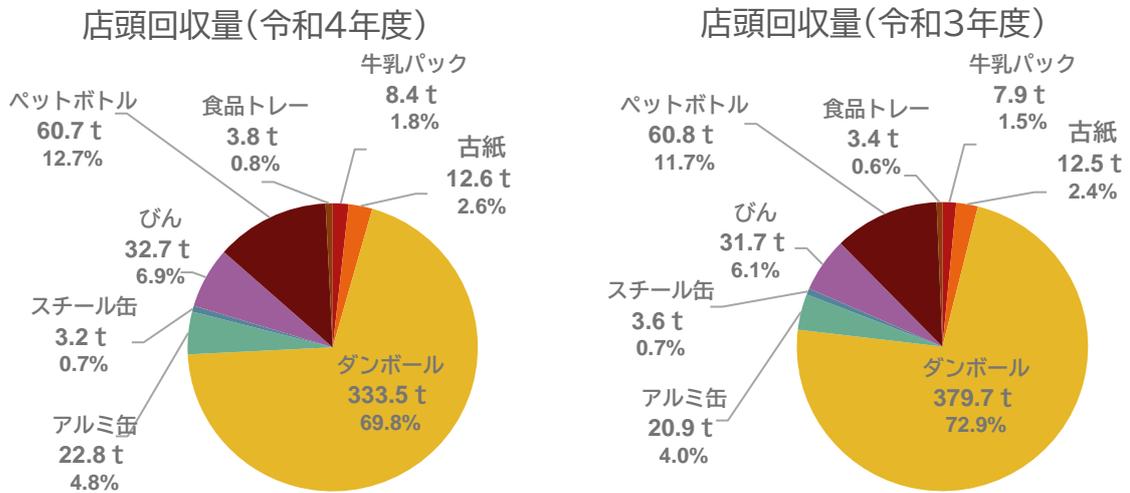
## 2 開始年度

- ・牛乳パック、食品トレーは早い時期から実施されています。

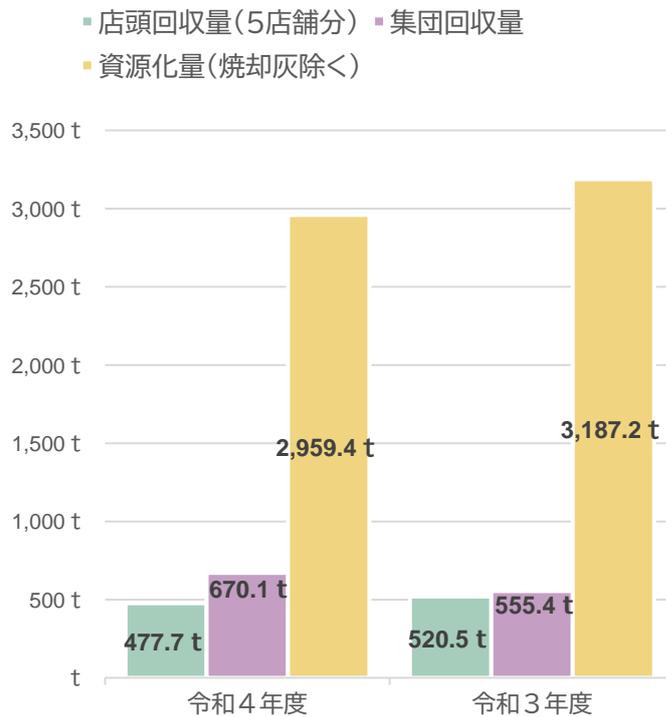
開始年度	開始品目数	内訳
1994年度 (平成6年度)	6	牛乳パック3、食品トレー3
1996年度 (平成8年度)	5	牛乳パック・アルミ缶・スチール缶・ペットボトル・食品トレー各1
2007年度 (平成19年度)	14	牛乳パック・古紙・ダンボール・びん・ペットボトル・食品トレー各1、アルミ缶・スチール缶各3
2011年度 (平成23年度)	3	古紙・ダンボール・ペットボトル各1
2017年度 (平成29年度)	5	牛乳パック・アルミ缶・スチール缶・ペットボトル・食品トレー各1
2022年度 (令和4年度)	3	牛乳パック・ペットボトル・食品トレー各1
合計	36	

### 3 回収量

- 回収量を個別に把握できた5店舗の合計回収量は477.7t(令和4年度)であり、市の資源化量2,959.4 t(令和4年度、焼却灰除く ※「館林市の清掃事業概要」数値)に対する割合は約13%となっています。
- 品目別では、回収している店舗は少ないですが、ダンボールの占める割合が大きくなっています。



### 資源化量との比較

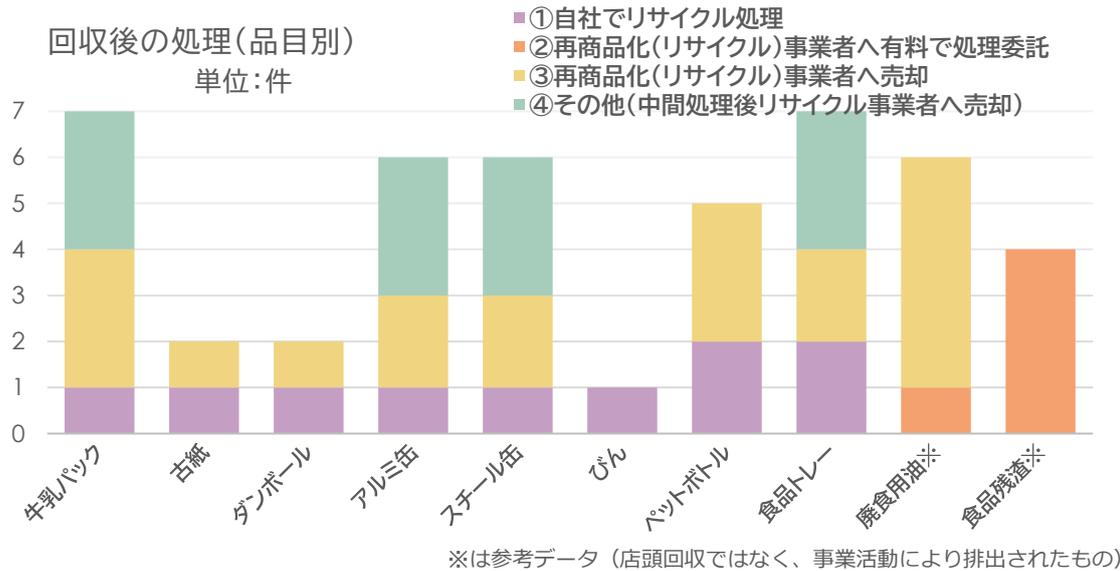


### 4 ポイント付与

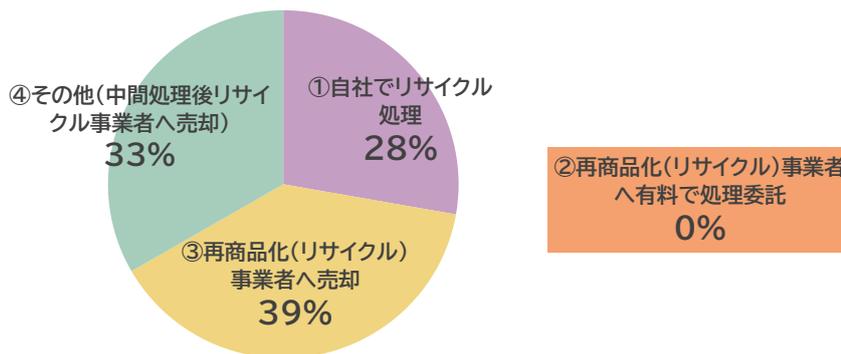
- 全36品目中3件(古紙・ダンボール・ペットボトル各1件)でポイント付与が行われています。

## 5 回収後の処理

- ・自社でリサイクル処理している割合が28%、減容等中間処理後リサイクル業者に売却している割合が33%と、高い割合でリサイクルに向けて自社で何らかの処理を行っています。
- ・再商品化(リサイクル)事業者へ売却している割合が39%で、有料で処理委託している品目はありませんでした。



## 回収後の処理(全品目合計)



## 6 再資源化事業計画の申請の有無

- ・プラスチック使用製品の製造・販売事業者等が製品等を自主回収・再資源化する計画を作成し、主務大臣が認定した場合、当該計画に基づいて行われる自主回収・再資源化事業について、廃棄物処理法に基づく業の許可が不要となる申請ですが、申請している店舗はありませんでした。

## 7 店頭回収実施の課題

- ・回収物の中に異物や、回収物以外の不法投棄がなくなる事。
- ・定期的な回収を行なう人員の確保
- ・利用者の分別意識の向上
- ・回収可能なものの周知
- ・回収ボックス利用ルールの周知

## 8 レジ袋配布量

- 令和2年7月から実施されたレジ袋有料化により全店舗でレジ袋削減が推進されており、約7割の辞退率となっています。
- レジ袋辞退率と配布枚数から積算すると、把握できた店舗の合計で4.104t(6.8g/枚 ※環境省「3R行動見える化ツール」にて積算)であり、辞退なしの場合の積算値15.171tから比べ約10t削減されたこととなります。

### レジ袋配布枚数(4店舗分)

